

**(2) 水産業の振興**

八雲町の水産業の現状は、主力であるホタテ養殖漁業は回復してきているものの、未だ稚貝の生育不良やへい死が発生しており、さらに、新型コロナウイルス感染症や一昨年の太平洋沿岸で発生した赤潮など、今後のホタテ養殖漁業への影響が心配されております。

この状況は、八雲地域のみならず、噴火湾全域での喫緊の課題となっていることから、関係自治体をはじめ噴火湾内各漁業協同組合と連携し、情報の共有を図り、ホタテガイの安定生産に向けた海洋環境の変化やザラボヤなど有害生物への対応、生育阻害要因の原因究明や対策などについて協議を続けているところであります。

漁船漁業においては、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ほとんどの魚種で価格が回復傾向にあります。依然としてイカ等の不漁が続いており、秋サケについては、道内の来遊数が前年比8割増加、漁獲高は過去最高との報道がありました。本

町においては、噴火湾側と日本海側で若干差はあるものの、漁獲量は前年並み、漁獲額は前年の7割程度にとどまり、大変厳しい状況が続いています。

これら回遊資源の回復や生産増大に向けた取り組みが重要であることから、関係機関と連携し、安定生産に向けた資源づくりと資源管理を進めてまいります。

令和元年12月からスタートした北海道二海サーモン事業は、町の新たな水産資源づくりとして取り組みを進めているところであり、熊石地域において本格事業化に向け、一歩一歩前進しているところであります。

当町が先鞭をつけた北海道初となるサーモン海面養殖事業は、道南を中心に広がりをみせ、今では函館市、木古内町、江差町、奥尻町、せたな町、泊村、岩内町の各市町村においてサーモンの養殖試験が行われており、サーモン養殖は、今後益々、地域産業の維持・活性化に結びつく取り組みであると考えております。

町としては、熊石サーモン種苗生産施設でのサーモン種苗生産の拡大を図っていくとともに、熊石地域の漁業者と連携し熊石漁港でのサーモン海面養殖の取り組みを進めるほか、北海道二海サーモンの付加価値の向上を図りながら、基幹産業の一つである漁業・水産業をはじめ地域産業の活性化を図ってまいります。

また、担い手や漁業就労者対策、漁港整備事業については、漁業協同組合と就労環境の改善に向けて緊密に連携するとともに、漁港内での増養殖事業の推進や漁船の大型化への対応など、漁港の機能強化と効率化に向け、国および北海道に引き続き要請してまいります。

**(3) 商工業の振興**

令和4年3月下旬にまん延防止等重点措置が解除されて以来、行動の制限も緩和され、全国旅行支援などの効果から人々の動きに変化が現れておりますが、コロナ禍以前の状態に回復するには至っていない状況にあります。

このため、令和4年度においても町内事業者経営安定支援の第2弾として利子の補給を行ってまいりましたが、令和5年度においても引き続き関係団体と連携を図り、町内経済の状況の把握に努めてまいります。

また、地域経済の担い手である商工業者の高齢化が進展していることから、事業承継を希望されている事業者が円滑に承継できるよう、起業・創業を含め、商工会と連携を図りながら後継者対策などの検討を継続して進めてまいります。

近年、デジタル・トランスフォーメーション(DX)化が注目されており、支払いがスピーディーに行えるキャッシュレス化やSNSによる情報発信などの取り組みが全国的に進められております。時代の変化に対応するため、事業者のDX化について関係団体と検討を進めてまいります。

**(4) 観光の振興**

北海道新幹線の札幌延伸が迫っており、観光の拠点と

なっている噴火湾パノラマパークおよび情報交流物産館丘の駅への交流人口の更なる増加と町内経済への効果波及を図る必要があります。コロナ禍によって変化している観光ニーズを捉え、民間活力と「食」「観光」「体験」といった観光資源の組み合わせによる魅力あるプランの造成を各事業者へ促し、観光物産振興を推進してまいります。

熊石地域の観光拠点である道南休養村エリアには、キャンプ場やパークゴルフ、温泉、川遊びなど豊かな自然環境を満喫できるレクリエーション施設が整備されていることから、今後も利用者の満足度を高められるよう施設の管理・充実に努め、地域の魅力を発信してまいります。

**(5) 雇用の創出と雇用環境の向上**

少子高齢化や人口減少が加速する中、八雲町における産業の担い手不足、町外への労働力の流出が、商工業のみならず八雲町全体の大きな課題となっております。